

令和7年度 第1回磐田市立図書館協議会会議録

- 日 時 令和7年7月16日（水） 午後3時から午後4時30分まで
- 場 所 磐田市立中央図書館2階視聴覚ホール
- 出席者 委員：青島公悦、中山ゆかり、鮫島はるか、佐藤寛子、
大橋八重子、宮崎真理子、匂坂和子、川合明美（以上敬称略）
事務局等：
山本敏治教育長
中央図書館：伊東直久館長、高杉順也館長補佐、
井上隆志主査、老川雪絵主任、高橋潤副主任
福田図書館：太田雄介館長
竜洋図書館：鈴木康之館長
豊岡図書館：伊藤傑夫館長
にこっと ：藤田昌弘館長
学校教育課：鈴木公宣指導主事
- 傍聴人 1名 玉木良汰氏

□内 容 以下のとおり

- ・議事に先立ち、山本教育長から各委員に委嘱状、辞令書が交付された。（代表で中山ゆかり委員へ辞令書、川合明美委員へ委嘱状）
- ・委員の互選により、青島公悦委員が会長に選任され、会長より佐藤寛子委員が職務代理者に指名された。

議事（1）令和6年度事業報告及び令和7年度主要事業について

令和6年度の事業報告について（以下、事務局）

1 図書館資料整備事業

各館の開館状況や資料の所蔵状況、貸出状況などの実績を記載してあります。各館の開館状況をご覧ください。年間の利用者数については、入館者数のうち図書などの貸出をした人数となりますが、にこっと及びながふじ図書館を含めた、6館で331,086人の利用がありました。また、貸出状況については、6館で1,141,487点となっており、資料別にみますと、一般書が564,266点、児童書が491,316点となっています。

次に予約・リクエスト・レファレンスですが、レファレンスとは、参考、参照という意味で、図書館のサービスで言えば、情報探しのお手伝いです。利用者の疑問や相談を解決するため参考となる資料をご案内するサービスで、年間2,418件の利用がありました。

電子書籍サービスの、閲覧数等は、92,685回となっています。小・中学校のデジタル化に対応し、令和6年10月から既存の電子図書館を活用した学校連携サービスを開始し、児童、生徒の学習支援と読書推進を図りました。電子書籍サービスは、24時間いつでも利用できるサービスであることから、利用者拡大に向けて検討を続けていきたいと考えております。

2 図書館施設管理事業

各館の状況に合わせて様々なイベントを開催しました。また、展示室は市民団体の活動の発表の場として利用されており、46団体34,810の方が利用されました。

3 子ども読書活動推進事業

「第4次磐田市子ども読書活動推進計画」に基づき、「おはなし会」や「茶の間ひととき読書運動」を開催しました。「茶の間ひととき読書運動」は、市内小学校3年生全員を対象に、1クラスにそれぞれ50冊と図書館お薦め本を貸出し、学校と家庭と図書館の三者協力のもとで、子どもたちが本に親しむ機会の確保に努めました。なお、昨年度の協議会において、「茶の間ひととき読書運動」に関する経緯やどのように始まったかなどをPRしてほしいというご意見をいただき、図書館ホームページへの掲載や保護者配布用の「ちやのまだより」を改善させていただきました。

「読み聞かせボランティア養成講座」は「基礎編」と「応用編」、「ステップアップ勉強会」をそれぞれ開催しました。なお、このような活動には、図書館職員だけでなく、いくつかのボランティア団体の皆さんにご協力をいただき開催をしております。

4 図書館視覚障害者サービス事業

資料の貸出と対面朗読の実施状況は記載のとおりです。

【磐田市立図書館等 令和6年度活動資料】

それぞれの館で実施したイベントなど、活動状況を抜粋し掲載しました。

「中央図書館」初めて図書館フェスティバルを開催。

「福田図書館」来館者200万人を達成。

「竜洋図書館」河合楽器製作所(株)竜洋工場とコラボ企画を開催。

「豊岡図書館」子育て支援センターと連携し出張おはなし会を開催。

「にこっと」来館者100万人を達成。

「ながふじ図書館」学校と連携し様々な企画展示を開催。

令和7年度 主要事業概要について（以下、事務局）

効果的な情報と魅力の発信として、主に3点を実施していきます。

図書館主催の事業について、図書館へ足を運んでいただくきっかけづくりとして、また、図書館を知っていただく機会として、有効なものを開催していきたいと考えています。令和6年度に初開催した図書館フェスティバルは好評であったため、今年度以降も継続していく予定です。

なお、昨年度の図書館協議会において、静岡産業大学様からお力添えをいただける旨のお話がありましたので、現在、一緒に何かできないかという協議を行っているところであります。

また、その他のご意見として、市内企業とのコラボ企画や工場見学、ワークショップなどを開催してほしいというご意見もありましたので、今年度、7月30日に(株)コーシンサービスへ「SDGsを学ぼう」と題しての工場見学、8月6日には、昨年に引き続いて河合楽器製作所(株)竜洋工場へ「竜洋で学ぶピアノの歴史」と題しての工場見学、9月20日に「世界かんがい施設遺産の寺谷用水施設の見学」などを計画しております。

次に、情報発信の強化として、図書館ホームページやSNS（LINE、インスタグラム）の活用などを行い、情報発信に取り組んでいきます。また、他部門、他団体との連携については、例年に引き続き実施方法を検討しながら進めていきたいと考えています。

次に、施設管理と運営ですが、施設管理については、施設の長寿命化対策など、利用者の皆様

が安全に、安心して利用できる施設の維持管理に努めてまいります。中央図書館をはじめ、老朽化が進んでおりますので、改修や統廃合、複合化等を含めて今後検討していきたいと考えております。また、運営については、IC タグシステム機器の利用促進を図り、市民サービスの向上、事務の効率化をひきつづき進めていきたいと考えております。

図書館資料整備事業ですが、できる限り同じ資料を複数館で所蔵しないよう適正な管理をするなど、厳選した資料収集を実施するとともに、季節やテーマに応じた特設コーナーの設置など、各館において取り組みを進めていきます。

子ども読書活動推進事業 については、「第4次磐田市子ども読書活動推進計画」に基づき、継続して各事業を実施していきたいと思っております。「第4次磐田市子ども読書活動推進計画」は最終年度を迎え、令和8年度からの第5次計画策定に向けて、現在、小中学校児童生徒、高校生、就学前児童の保護者などへのアンケート調査を実施中です。今後、皆さんへ中間案をお示ししての書面審査、パブリックコメントを経て、最終調整を行い策定する予定です。継続して各事業を実施しつつ、新計画の改訂作業を進めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

図書館視覚障害者サービス事業 については、点訳、音訳協力員の皆様の協力をいただきながら、点訳図書や録音図書の作成による貸出し、対面朗読の実施、大活字本の整備など、視覚障害がある方にも本に親しむ機会が提供できるよう、継続して事業を実施していきます。

<質疑・意見>

(委 員)

事業報告の中で、読み聞かせボランティア養成講座が挙げられていますが、ストーリーテリング養成講座の記載がありませんが、どういう位置づけなのか。

(事務局)

図書館主催事業で令和6年度に開催しておりますので、記載漏れになります。本来であれば掲載する事業です。

(委 員)

昨年9回行いましたので、是非記載してほしい。令和7年度事業計画に読み聞かせボランティア養成講座の講師が図書館職員となっている。基礎講座は図書館職員が行っているが、応用講座はこづちの会が講師を務めている。載せて頂くと励みになり、持続に繋がると思うので、記載をお願いしたい。

(事務局)

こちらも先ほどと同じで資料に記載がありませんでしたが、図書館の行事につきましては、色々な団体の皆様のご協力なくてはできません。引き続きご協力をお願いしたいと思います。

(委 員)

ストーリーテリングの養成講座の受講生が16人の内7人が市外の方でした。磐田市民は9人ということでしたが、磐田市民から数名受講に漏れてしまったという問合せがありました。申込みの段階で、市民優先という方法はできないでしょうか。

(事務局)

可能だと思いますが、検討させていただき、今後実施する際には申込み段階で市民優先という形にしていきたいと思っております。

(委 員)

今後も断続的に養成講座を実施していただきたい。今年はフォローアップ研修ということで、とわの会が16名受講しました。講師の松本先生がお元気な内に断続的にお願いしたい。学校からのおはなし会の要請が多く、ストーリーテリングの要請も多い。また保護者の参加が少なくなっている。読み聞かせボランティアを増やすということと、質を高めるということを同時に行うことで、学校が行いやすいと思う。子供たちも喜んで参加でき、選書も質が高いという、先を見据えお願いしたい。

議事（２）令和６年度図書館評価結果報告と令和７年度評価指標について

(以下、事務局)

まず、この図書館評価につきましては、令和５年度第２回図書館協議会で実施することを決定しました。そして、令和６年度の運営に関する指標及び目標を設定し、図書館サービス、図書館の運営状況について目標の達成状況を自己評価したものが「令和６年度図書館評価（報告）」になります。そして、今日皆様から頂いたご意見とともに結果をホームページ等で公表していく予定です。なお、今回初めてこちらの図書館評価を実施しておりますので、指標及び目標が妥当な数値であったかを併せて検証し、それを基に令和７年度の図書館評価の指標案を作成したものが、「令和７年度磐田市立図書館評価（案）」になります。各項目について自己評価をＡからＤの４段階で評価しています。指標については全部で31項目ありますが、そのうち19項目がＡ、残り12項目がＢと、目標はおおむね達成できている状況にあります。項目ごと課題もありますので、引き続き、「市民に役立ち市民とともに歩む図書館を目指します。」を基本方針に、市民の教育文化の情報拠点として学びを支援し、ウェルビーイングを感じられる図書館づくりを目指していきたいと考えております。「令和７年度磐田市立図書館評価（案）」につきましては「令和６年度図書館評価（報告）」をもとに、令和７年度の指標案を作成したものにになります。今年度、先ほど館長補佐からの説明もありましたとおり、図書館運営に取り組んでいき、来年度の第１回目の図書館協議会で、結果を報告させて頂く予定です。

<質疑・意見>

(委 員)

令和７年度磐田市立図書館評価（案）の色々な機能等努力が伺え、乳幼児や高齢者の方々が利用されているのが分かり関心しています。

(委 員)

私自身図書館の利用が少なく、毎日仕事に追われなかなか本に触れる機会がありませんでした。本を読みたいと思ってもなかなか実行に移すことなく、そういった中でにこっとという施設があることを初めて知りました。にこっとの様にほっとする場所が磐田市には用意されているということを知り、小さなお子さんとお母さんが一緒に、にこっとの中を楽しそうにお散歩している姿を見て素敵だと感じました。福田図書館の来館者が令和６年５月に200万人に達成し、令和６年12月に、にこっとは100万人にあつという間に達成したのは、雰囲気の良い施設は皆さん何度も足を運びたくなるのだと感じました。何度も足を運びたくなる、にこっとにはそういう雰囲気を感じます。簡単ではないと思いますが、古くなっている図書館も入りやすい雰囲気、いつで

もそこにて許される雰囲気を出していけるといいのかなと思います。お話し会なども開催されていて、この評価を見ても、講座など当初の予定の倍以上の方が応募されていて凄いなと思います。人が集まる、そういったことを増やし、ただ本を読む為だけではなく、ちょっとした居場所として図書館があったらいいのかなと思いました。今日こちらに来た時にも、平日なのに駐車場がいっぱいで皆さん磐田市の図書館が好きなんだなと思いました。

(委員)

地域資料のデジタル化点数ですが、令和6年度数値目標が80点ということですが、これからはデジタル化が進み、そのために図書館職員は時間も人もさけないと思います。しかし今の小学生は教科書がデジタルとなってきました。私たちの時代は活字を読んでというのがベースだったが、子ども達はデジタルデータで画面から頭に入ってくるという時代になります。その子たちがだんだん大きくなると全てがデジタルになる。そうやって欲しいというような傾向であるのではないかと思いますので、推進を進めていったほうがいいと思います。

(事務局)

デジタルの推進については、先ほどご説明させて頂いた通り、電子図書館の学校との連携を昨年10月から始めたところであります。こちらにつきましては今年度も、学校教育課と連携を取り続けていきたいと考えております。あと、皆さん電子図書館を御覧になっていただいたことがあられると思いますが、今年度6月から更にバージョンアップして、デジタルの雑誌を250点ほど見られるようにしました。予算的にも電子図書は一冊が高く、紙より3倍4倍の費用がかかります。

例えば紙の本が、1,500円位だと、電子は4,000円から5,000円以上します。なかなか予算にも限りがありますので、すぐ揃えるということではできませんが、徐々に増やしていきたいと考えておりますので、電子図書館を見て頂き参考に使っていただければと思います。図書館もデジタル化に少しずつ力を入れていきたいと考えておりますのでよろしくお願いします。

議事（3）その他（以下、事務局）

施設概要を基に、図書館の現状と将来的なあり方について、市全体の公共施設に対する長期的な考え方について説明をさせていただきます。

本市では公共施設の最適な配置を実現して、将来的に財政負担が軽減されることや行政サービス水準が確保できることを目標に掲げて、平成28年度から40年間の期間設定をして、公共施設等総合管理計画という計画を策定して、これに基づいて公共施設の維持管理をしています。この計画の中では、長寿命化をして計画的に修繕し、あるいは施設はできるだけ集約化や複合化、転用なども検討して市民サービスの確保に努めることとしております。単純に一例として、同一施設が古くなったからといって単純に建て替えをすることはしないということです。効率性利便性、あとは市民がいかに御利用中のサービスが継続して利用できるかといったところを検討した上で、統廃合や色々な部門の施設を複合化するなど、検討しながら建設費用、あとは維持費用、イニシャルコストとランニングコストを削減していくことを目指します。

まずは中央図書館につきましては本市の図書館サービスの中核施設でありますので、こちらは現在のこの施設をしっかりと継続して運用していく考えです。ただ建築も30年を超えています。比較的綺麗に見えますが、お客様からは目に見えにくい、電気設備や空調設備等は計画的に更新をしている所です。利用者サービスが直結するような箇所、例えばトイレや展示室など、各所の

床材や壁の老朽化が目に見えているところがあり、これに関してはリノベーションが必要だという認識を持っています。これは組織的な合意形成が取れるようにしっかりと取り組んでいきたいと考えています。

次に福田図書館については、比較的建築年数が浅い新しい施設でありますので、現在も施設の維持主体の改修を継続的に進めています。こちらでも現施設をしっかりと有効に今後も活用していきたいという考えを持っています。ただし、隣接する福田中央交流センターの老朽化が進んでいることや幹線道路からはアクセスしにくい道路状況の立地でもあり、将来的には、施設再編の中で、複合施設化が期待できる場合には、積極的に相乗りしていく考えです。

竜洋図書館については、竜洋なぎの木会館の併設施設となります。なぎの木会館は計画的に維持修繕を行っており、令和5年度には図書館部分の空調改修も終えています。今後も現有の施設を継続して活用していく考えです。ただし、将来的には、近隣施設の再編や集約化が検討された場合には、積極的に相乗りしていく考えです。

次に、豊岡図書館です。永らく豊岡支所の防災センターの建物を使用して運営していますが、今年3月から、豊岡支所が新築移転しました。図書館については建物の有効活用の考えから、移転することなく運用しています。当面は現状維持のまま図書館サービス提供を継続する考えです。しかしながら、将来的に施設再編や統合が浮上し、地域の利用拡大が期待できれば、現在の施設に固執することなく、積極的に複合化に参画していきます。

次にひと・ほんの庭にこつとです。こちらは旧豊田図書館をリノベーションし、子育て支援機能と図書館機能の複合施設として運営しています。こども部の所管ですが、図書館機能を併せ持つことに意義のある施設でありますので、今後も変わらず図書館サービスを継続する考えです。

最後にながふじ図書館です。こちらは、学校施設の開放事業として、図書室を地域開放し、公共図書館の一般図書も配置した図書館です。一般図書の貸出・返却と、豊田東小学校を加えた「ながふじ学府」の学校図書館の運営に対応するため、3名の会計年度任用職員を配置し、開設から5年目に入りました。地域との融合を目的とした開放事業ですが、残念ながら地域の利用者がわずかな状況で推移しています。一般利用者の大半は30歳代から50歳代、多くが保護者だと推察しています。実際に本を借りた方は1日平均で約6人です。利用が少ない要因としては、にこつとが近いことに加え、学校図書室の開放事業という事情から、開館時間が、平日午前9時から午後4時15分までであること、保護者などの関係者は入りやすいが、その他の方は積極的には訪れないこと、駐車場が敷地外で距離があること等が考えられます。これらの状況を踏まえ、費用対効果や児童生徒の安全安心という観点から、図書室の一般開放を見直し、学校現場で必要性が高い事柄を広い視点で検討して、児童生徒や保護者にとって、今以上に有益な使い方（例：不登校児のケア、特別支援学校と連携した活動場所等）に変更することを検討していく考えです。其々の施設ごとに関しては概ね以上ようになります。

<質疑・意見>

(会 長)

ながふじ図書館は昨年、見学させていただきましたが、事務所を通らずにいきなり本のある所に入れるということが、万が一危険な人物が入った場合、どう対応するか、何か考えていることがありますか。

(事務局)

近年立川市で痛ましい事件が起こり、学校現場の児童生徒の安全を保つにはどうしたら良いかというところが非常に大きな問題ではないかと考えています。その中で特にながふじ図書館は、設置当時の地域との融合を目指すビジョンをもとにして今の形になっていますが、最近の事件をみると不安を大きく感じています。もし、このまま開放を続けていくと、その対応として、防犯対策の強化が必要です。それも含めて様々な部局内で協議を進めてセキュリティの高度化、または開設当初の目的を見直すのか、今後協議をしっかりと進めていきたいと思っています。

(委員)

初任者の時に豊田東小学校に勤めていた関係で、ながふじ図書館をつくる際、どのようにつくっていくかというところで関わらせて頂いたところがあります。

やはり、その時にも防犯の事や、学校と連帯してというところで、例えば子供たちの居場所としてスクールカウンセラーを配置し、地域との連帯や子供の心のケアと学校の問題というところで、大きな問題があるのではないかという話が当時もありました。そういうところでまた活用が図られていくと、地域の中でも、カウンセラーに話に行けるという魅力、メリットがあったら、この地域連帯というところでもやっていけないのではないかという話も当時も出ていたので参考にしていただけたらと思います。学校として地域の図書館としての良さを、学校図書館部の中でも伝えていけたらと思います。

(委員)

私は市民活動団体に所属しておりまして、そちらのほうで、竜洋学府の小中一体校の話を今話し合っています。先ほど、市の公共施設の最適な配置ということで、色々な行政サービスを集約化、複合化するという点について、小中一体で複合化していったらどうかとか、そういう話も出ています。やはりどうしても交通アクセスという点がつきものになっていますので、そういった面も何か考えていかなければいけないと思いました。ながふじ学府の図書館については、一般開放というところがリスクが高い、ということが分かりました。竜洋の小中一体校の事もあるので一緒に考えていけたらと思いました。

(委員)

中央図書館しかまだ足を運んだことが無いですが、それぞれ特徴のある図書館経営をされているなと思います。日常生活で思ったのがニュートラルな空間、何の目的も担っていない空間が居心地良いということを感じていて、にこっとにニュートラルな空間があるのではと感じます。本の蔵書のお部屋ではないと思うんですが、そういう空間があると、何か一つ味のついた空間に入る手前で、一息ついて次の空間にという、設計上の事です。面白いのではないかなと感じました。報告につきましては、フェスティバルもとても盛大に、沢山の方が来館され、磐田市の図書館経営は、落ち着きがありしっかり地域に足を付けた、日々の貸出し業務等にしっかり軸を置いた、良い運営をしてると常日頃思っています。是非産業大学もフェスティバルに関わらせていただければ嬉しいなと思っております。

事務局より

- ・にこっと館長から20周年記念事業の案内

【連絡事項】

- ・磐田市子ども読書活動推進計画第4次計画の重点的取組実績について。
- ・「令和7年度静岡県図書館大会」は12月1日（月）の予定。
- ・次回協議会は日程が決まり次第お知らせする。
- ・施設見学

以上をもって委員会は終了

令和6年度磐田市立図書館評価(報告)

■【自己評価基準】

数値目標の達成状況等により、次の4段階により自己評価を行います

評価	評価基準
A	目標値を達成でき、一定の効果があつた
B	少し不十分な部分があるものの、概ね目標値を達成できた
C	不十分な点や課題があり、目標値を達成できなかった
D	不十分な点や課題が多く、目標値を全く達成できなかった

■【図書館サービスの向上】

資料の充実を図るとともに、関係施設との連携を図ります

主な取り組み	指標	数値目標 (R6年度)	取組内容	数値目標の説明	R6 数値 3 月末現在 (R5:年度末)	自己評価 A~D
(1) 図書館機能の拡充とDXの推進	市民1,000 人当たり貸出点数と総貸出点数	7,000 点 1,169,000 点	図書館サービスの向上に努め利用促進を図る	R4 年度実績 6,843 点 ／1,145,424 点 (人口 167,375 人) 「磐田の教育」施策指標	6,822 点 /1,125,067 点 (R5:6908 点 /1,148,773 点)	B
	地域資料のデジタル化点数	80 点	地域資料デジタル化の予算確保に努め、計画的にデジタル化を進める	現状維持 R4 年度実績 66 点	102 点 (R5:121 点)	B
	電子書籍蔵書数	13,000 点	電子書籍について計画的に資料を購入する	実績をもとに設定 R4 年度実績 12,072 点	14,440 点 (内 201 点読み放題) R5:13,183 点	A
	電子書籍貸出・閲覧数	10,000 点	計画的に書籍を入替え、利用方法の周知などに取り組む	対前年度比増 R4 年度実績 9,663 点	92,685 点 (内 81,290 点読み放題) R5:10,887 点	A
	相互貸借資料点数	貸出 900 点 借受 900 点	相互貸借により、借受や加盟館への貸出で利用者に資料を提供する	実績をもとに設定 R4 年度実績 貸出: 1,115 点 借受:885 点	貸出:1,016 点 借受:811 点 (R5 貸出:1037 借受:747)	B
	セルフ貸出機利用率	平均 40%≦	IC機器の利用率を上げ、業務効率を上げる	R5 年度から導入	中央 40.9% 全館 37.0% (R5 中央 36.4%、全館 32.3)	B

(2) 市民のニーズに応えられる資料 収集と情報提供の 充実	年間受入資料数	23,500 点	限られた資料費を有効に活用するため、新しい資料を全館的な視野で計画的に購入するとともに、リユース本を有効に活用する	図書館システムに登録、受入した資料の点数 現状維持 R4 年度実績 22,914 点	21,710 点 (R5:23,419 点)	B
	入館者数(4 館)	390,000 人	居心地のよい空間づくり、魅力ある展示や講座の実施	来館者の延べ人数 対前年度比増 R4 年度実績 380,011 人	401,043 人 (R5:387,509 人)	A
	Instagram フォロワー数	400 人	アプリ利用で“見える情報発信”を全館で実施	フォロワー数 R4 年度途中から導入	706 人	A
	LINE 連携者数	4,500 人	LINE アプリの利用で利便性と情報発信の効率を上げる	おともだち登録数 R5 年度から導入	おともだち登録: 6,193 人 連携: 4,500 人	A
	他機関との連携企画等の実施数(4 館)	12 件	庁内各部局との連携企画、各種団体との合同企画で情報提供を実施	実施数 対前年度比増 R5 年度からカウント開始	20 件 (R5:8 件)	A
(3) 乳幼児、高齢者、障がい者など、すべての市民への図書館サービスの提供	子ども向け講座・行事等の参加者数(児童のみ。にこっと除く)	5,400 人	子ども向け、大人向けのおはなし会など、魅力ある企画の実施	参加者数 対前年度比増 R4 年度実績 2,808 人 「磐田の教育」施策指標	3,230 人 (R5:2,341 人)	B
	読書バリアフリー啓発回数(4 館)	3 回	読書バリアフリー普及のための啓発活動の実施	R6 年度からカウント開始	3 回	A
	視覚障がい者サービス登録協力員数	24 人	協力員勉強会などの実施	登録者数 現状維持 R4 年度実績 24 人	32 人 (R5:29 人)	A
	外国語資料蔵書数(5 館)	4,500 点	多言語資料の収集、所蔵資料の見直し	所蔵冊数 現状維持 R4 年度実績 4,528 点	4,530 点 (R5:4,663 点)	A

(4) レファレンス(参考調査)サービスの充実	レファレンス対応件数(4館)	1,600件	各館で、市民の多様な質問や調査に対し、資料、情報を提供できるようスキルアップを図りながら対応する	カウント件数 対前年度比増 R4 年度実績 1,550 件	2,418 件 (R5:1,798 件)	A
	レファレンスデータベース登録件数(4館)	3件	国立国会図書館のレファレンスデータベースへ自館のレファレンス事例の登録を進め、調査に役立つ情報を提供	登録件数 現状維持 R4 年度実績 0 件	3 件 (R5:3 件) うち 地区館 1 件	A
	郷土資料蔵書数(5館)	56,000点	郷土資料(地域資料)を収集、保存、提供し、地域への愛着を育む	所蔵冊数 現状維持 R4 年度実績 55,786 点	55,854 点 (R5:55,366 点)	B
(5) 市民が学び、交流できる生涯学習の機会の創出と読書ボランティア活動の支援	読み聞かせボランティア・ステップアップ講座等の延べ参加者数	180人	参加者のレベルに応じた講座を企画・実施し、ボランティアの育成を図る	参加者数 実績をもとに設定 R4 年度実績 172 人	381 人 (R5:194 人)	A
	団体貸出資料点数(4館)	20,000点	市内各団体への資料提供を図ることで情報提供する	実績をもとに設定 R4 年度実績 19,536 点	18,849 点 (R5:19,055 点)	B
	各館の自主事業・講座などへの参加者数	6,000人	施設を活用し、市民の生涯学習の支援を促す	実績をもとに設定 R4 年度実績 5,108 人	5,263 人 (R5:9,295 人)	B

■【地域の学習資源を生かした教育活動の推進】

市立図書館と家庭、地域、園・学校が連携を図りながら読書活動を推進します

主な取り組み	指標	数値目標 (令和6年度)	取組内容	数値目標の説明	R6 数値 3月末現在 (R5:年度末)	自己評価 A～D
(1) 子どもたちの読書活動と自主的な学習活動の支援	児童図書の蔵書冊数(12歳以下の子ども一人当たり。にこっと・ながふじ含む)	15冊	児童・生徒やその保護者のニーズに応えるため、児童書の収集・保存・提供に努める	実績をもとに設定 R4年度実績 14.3冊 「磐田の教育」施策指標	14.7冊 (R5:14.7冊)	B
	児童図書の貸出冊数(12歳以下の子ども一人当たり。にこっと含む)	32冊	「読みたくなる」気持ちにさせる展示、ブックリストや紹介方法の工夫に努める	実績をもとに設定 R4年度実績 28.5冊 「磐田の教育」施策指標	29.8冊 (R5:29.7冊)	B
	茶の間ひととき読書運動参加校数	22校	小学3年生を対象とした、学校・保護者との連携事業として、読書推進を図る	現状維持 R4年度実績 22校 (市内小学校全校)	22校 (R5:22校)	A
	10代向け資料情報発信数(4館)	12件	10代の図書館利用と読書推進を図るため、SNSを活用した読書に関する情報発信を充実させる	実績をもとに設定 R5年度からカウント	27件 (R5:12件)	A
	子どもと読書講演会等参加者数	150人	子どもと読書に関わる人々の読書活動を支援するとともに、読書への意識啓発を図る	実績をもとに設定 R4年度実績 100人	158人 (R5:360人) ※R5録画配信 視聴者数 242名含む	A
(2) 学校や学校図書館、子育て支援施設などとの連携強化	団体貸出数(再掲)	20,000点	学校等への団体貸出を実施し、学習支援を図る	実績をもとに設定 R4年度実績 19,536点	18,849点 (R5:19,055点)	B
	出張・来館のおはなし会や講話等の実施回数(4館)	30回	幼保・こども園、小中学校、子育て支援センター等の団体利用や読書啓発を推進する	実績をもとに設定 R4年度実績 27回	62回 (R5:26回)	A

ながふじ図書館 貸出冊数(16歳 以上)の割合	15%≦	ながふじ学府一体校 内の学校図書館の一 般地域利用者の利用 を図る	実績をもとに設定 R4 年度実績 11.2%	23.7% (R5:16.8%)	A
研修・実習・見学 等受入人数(4 館)	170 人	各図書館で、研修、実 習、見学やガイダンス 等を実施し、図書館へ の理解を深め、利用促 進を図る	実績をもとに設定 R4 年度実績 235 人	605 人 (R5:161 人)	A
10 代向け(ヤン グアダルト)との 連携企画数(4 館)	6 件	ティーンエイジャーとの 連携企画を実施するこ とで、10 代の図書館 利用を促す	R5 年度からカウント	9件 (R5:7 件)	A